
東京計器株式会社

2021年3月期 第3四半期 決算補足説明資料

2021年2月10日（水）

本説明資料に記載された将来に係る事項は公表時点で入手可能な情報を踏まえて弊社経営陣が想定したものです。従って、今後の事業環境等により差異が生じることもありますので、ご承知置さください。

2021年3月期 第3四半期 決算サマリー

- ◆ 油空圧機器事業では、中国市場は回復し堅調に推移したが、主要国内市場はコロナ禍の影響による需要減は底を打ったものの回復は遅れている。
- ◆ 通期業績予想は、節減による販管費の減少などからわずかに増益。
- ◆ 防衛・通信機器事業では、半導体製造装置市場に新商品を投入。
- ◆ 株主優待制度を新たに導入。

トピックス

半導体製造装置市場へ新商品投入！ 成膜装置向けソリッドステートマイクロ波電源

これまでのエッチング装置向けに加え、当第3四半期に新たに成膜装置向けマイクロ波電源をリリース
2023年3月期から本格的な量産を予定

当社は半導体製造装置市場を成長事業と位置付け、新商品の開発を加速させています。
当社の得意とするマイクロ波技術により半導体の微細加工の進展に寄与するとともに、未来のデジタル化社会、「Society5.0の社会」の実現に向け常に技術開発を進めています。

製品の特長

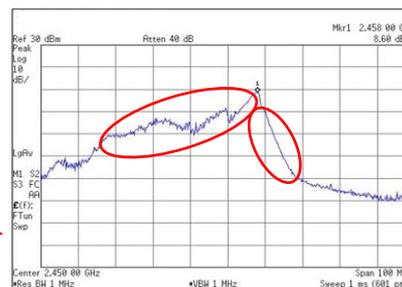
マイクロ波電源に従来のマグネトロンに替えてソリッドステート（半導体）を用いることで、より安定した周波数特性が得られ、より精密な微細化加工などの付加価値をもたらすことが可能

周波数特性 比較

【マグネトロン】



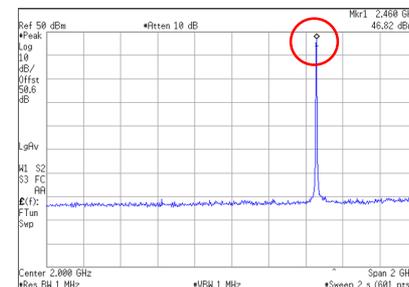
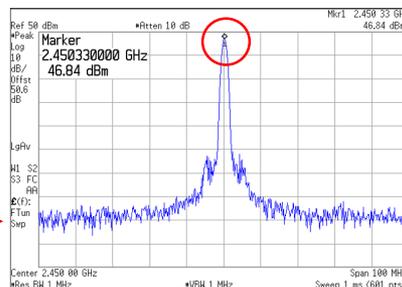
必要な周波数の周辺に
不要な成分が発生する



【ソリッドステート】



必要な周波数のみ容易に
選択できる

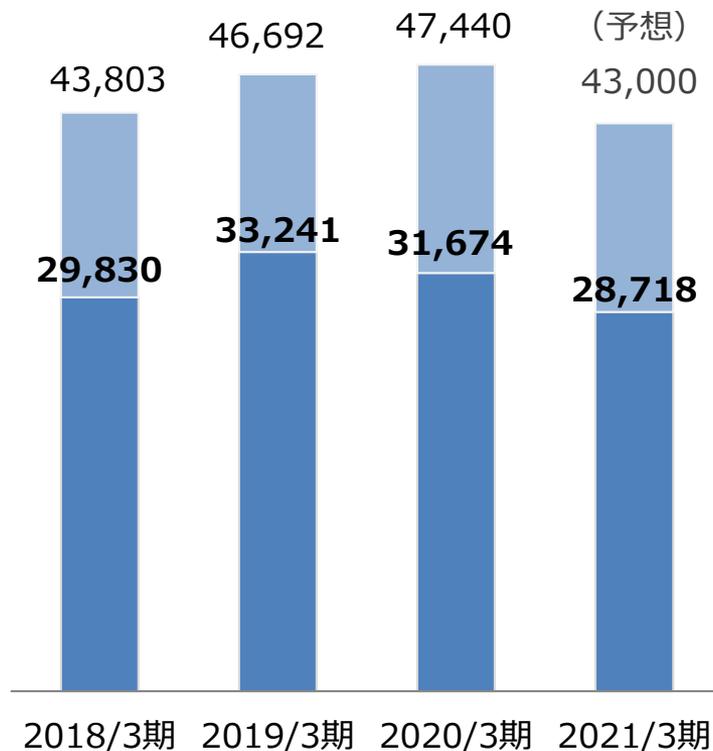


第3四半期 連結損益の推移



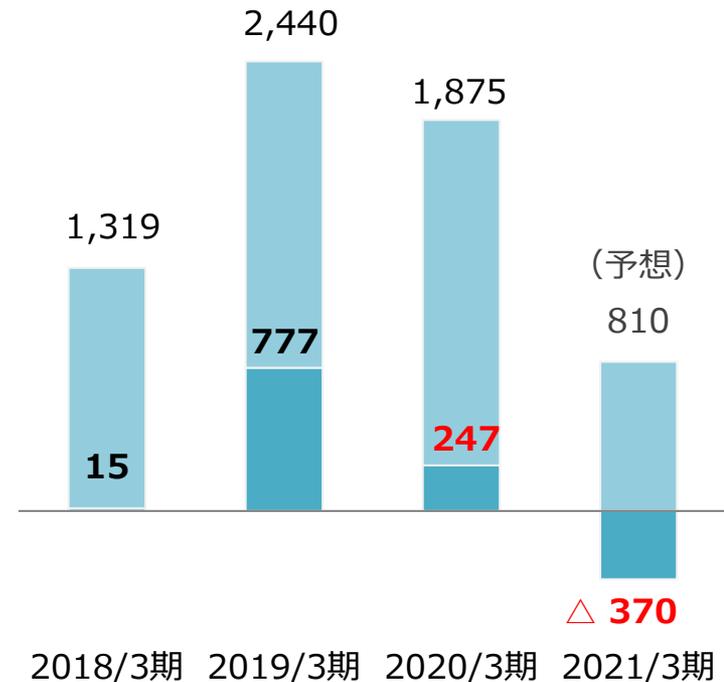
【売上高】

(単位：百万円)



【営業利益】

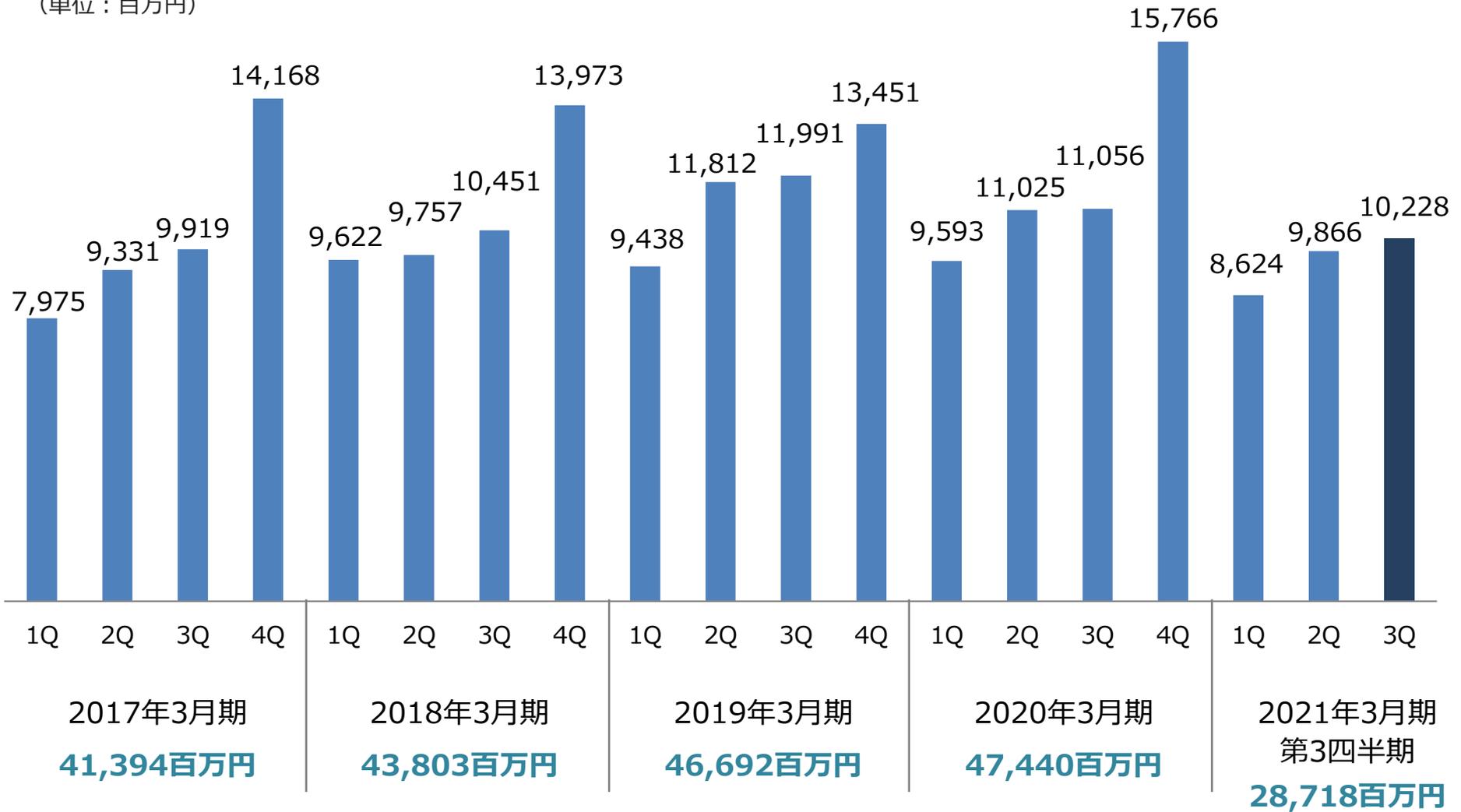
(単位：百万円)



※2021年2月10日発表の「2021年3月期 第3四半期決算短信」にて通期業績予想を見直しました。

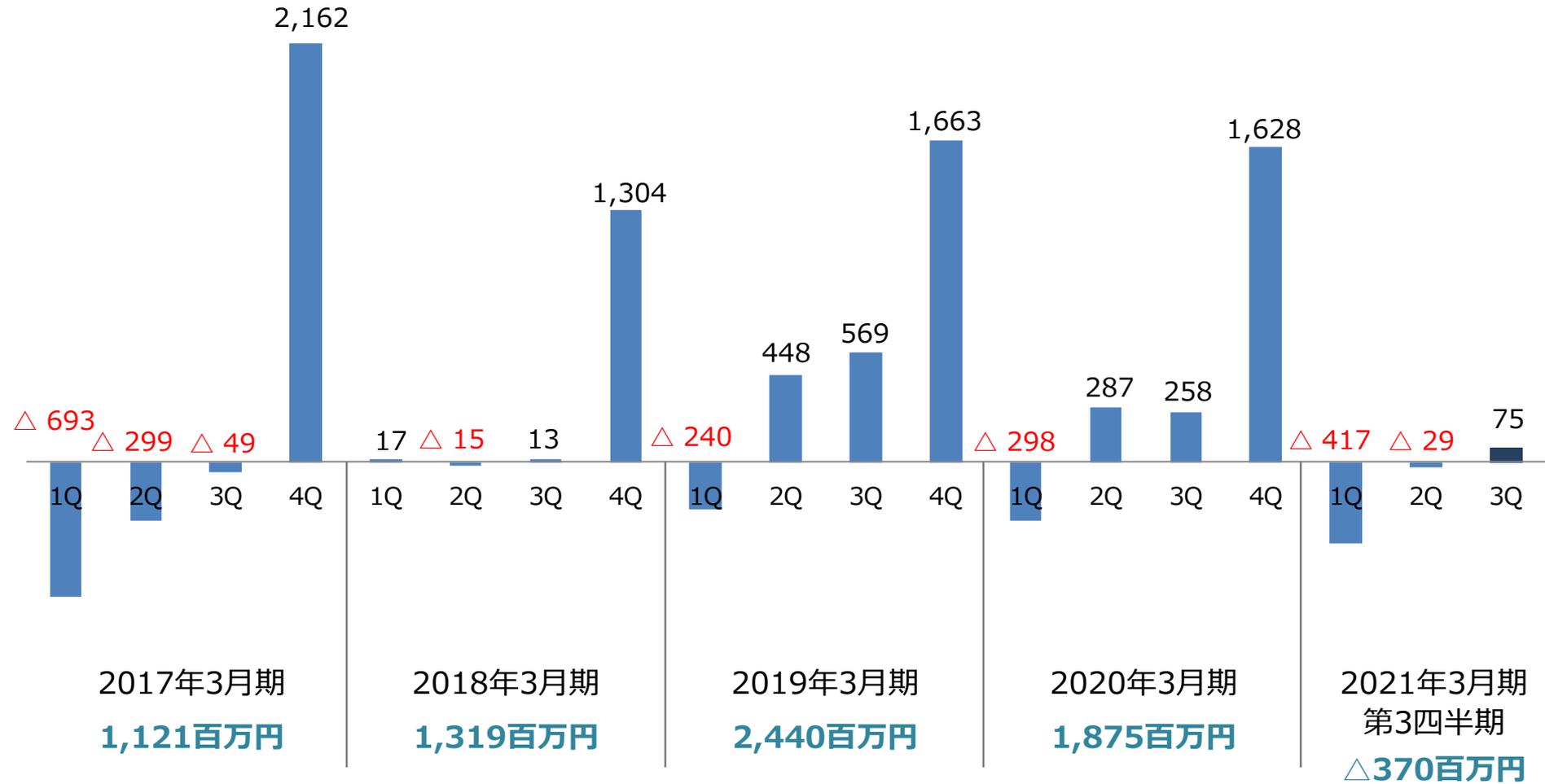
四半期 連結売上高推移

(単位：百万円)



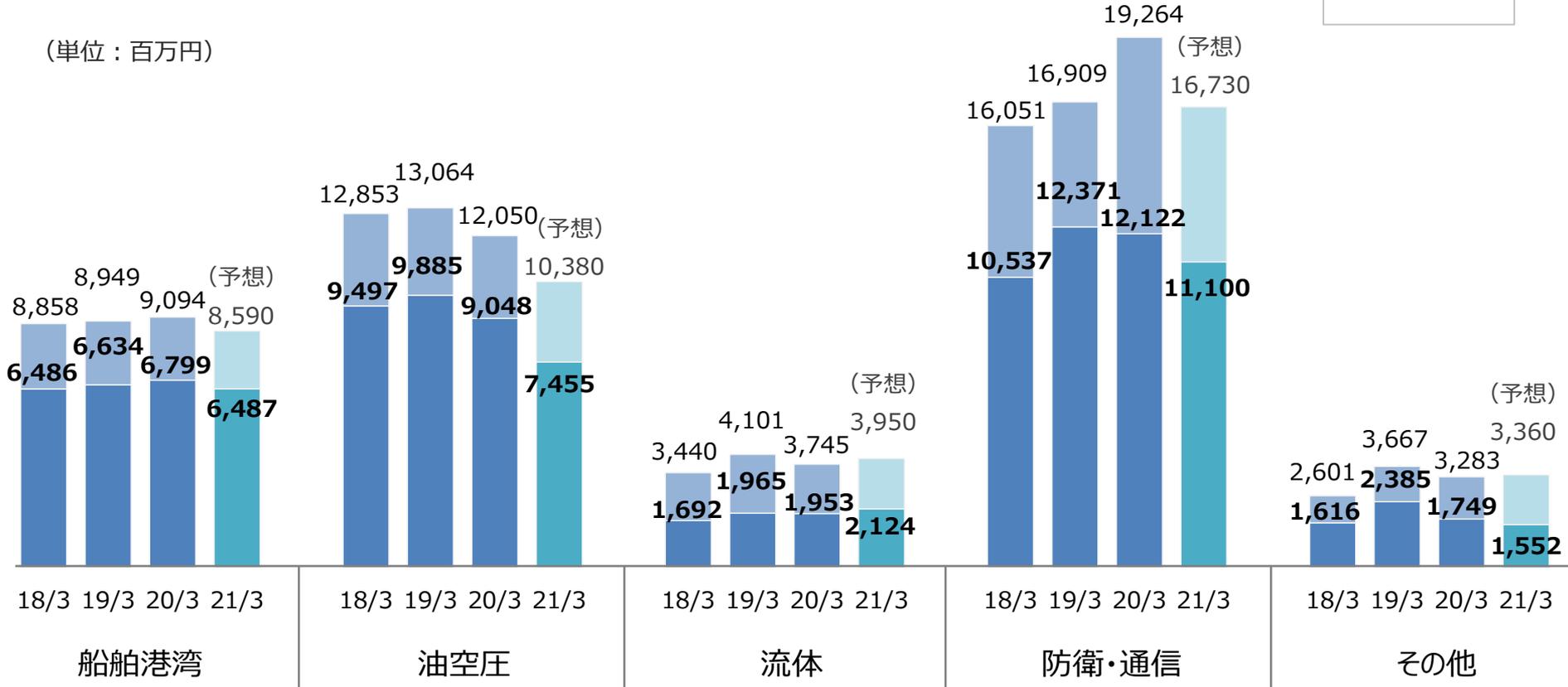
四半期 連結営業利益推移

(単位：百万円)



セグメント別 第3四半期 売上高推移

(単位：百万円)



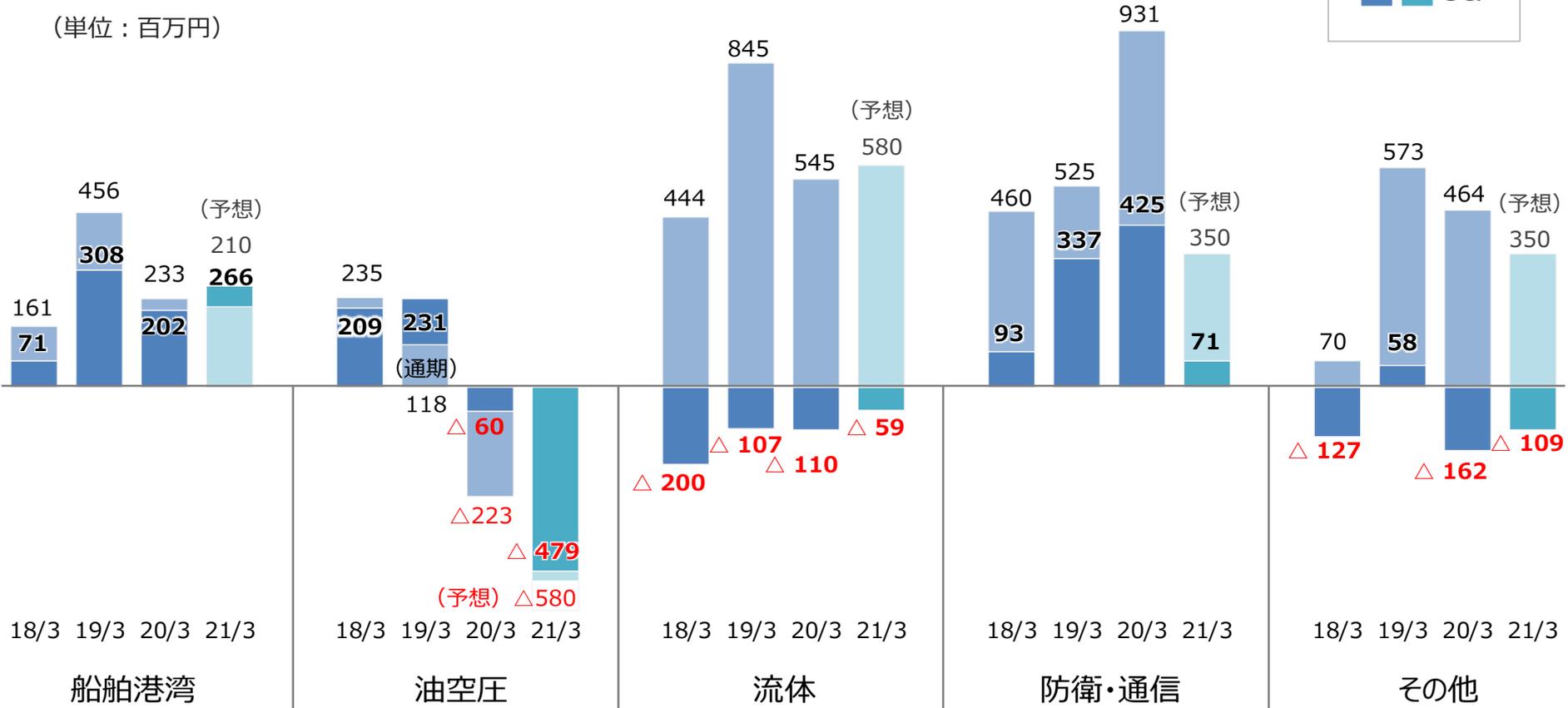
※数値は調整前売上高

※2019年3月期より「防災機器事業」は「消火設備市場」として「その他の事業」から「流体機器事業」セグメントに移行しております。
上記の2018年3月期の売上高はセグメント組替え後のものとなっております。

※2021年2月10日発表の「2021年3月期 第3四半期決算短信」にて通期業績予想を見直しました。

セグメント別 第3四半期 営業利益推移

(単位：百万円)



※数値は調整前営業利益

※2019年3月期より“防災機器事業”は“消火設備市場”として「その他の事業」から「流体機器事業」セグメントに移行しております。

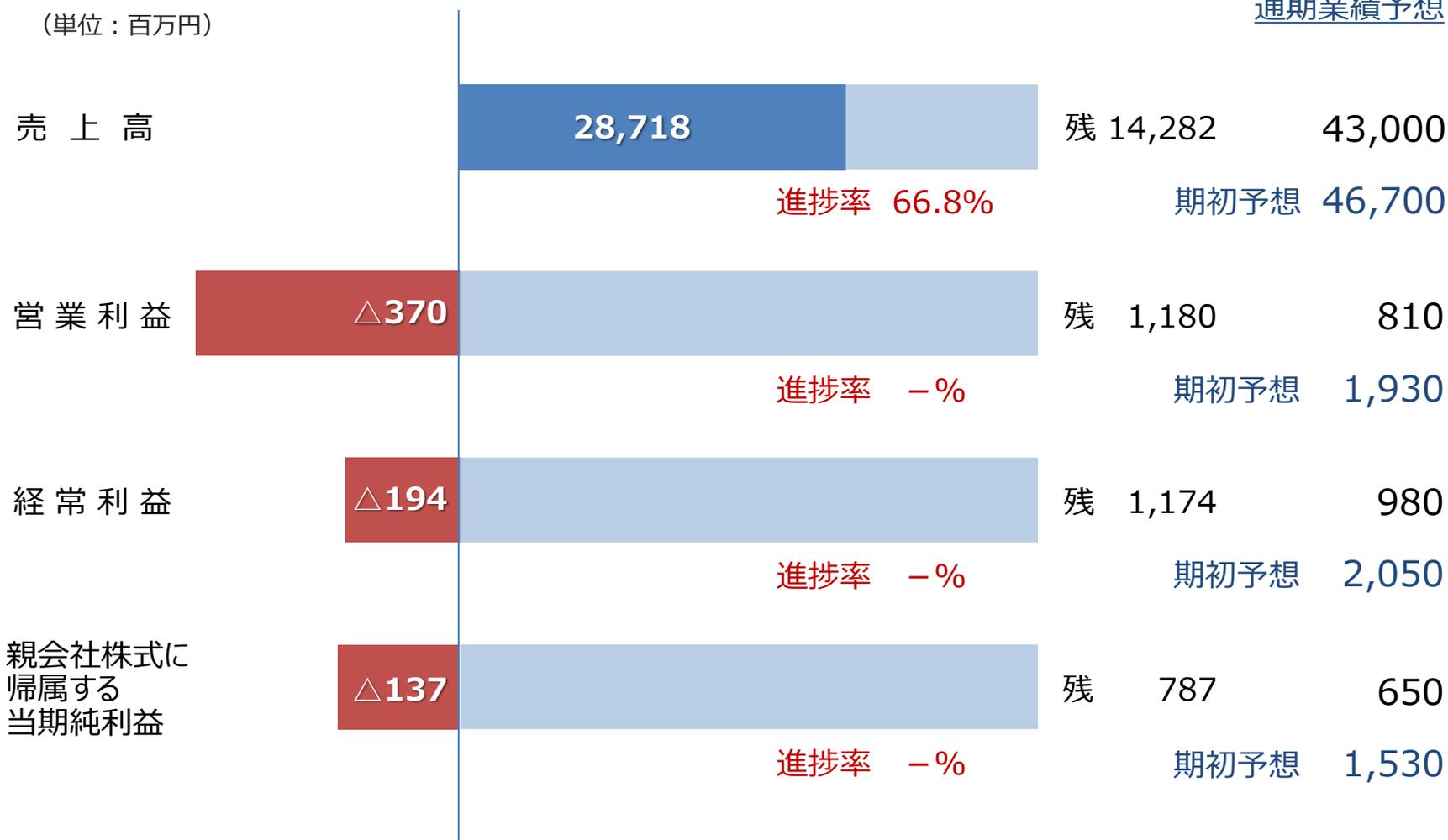
上記の2018年3月期の営業利益はセグメント組替え後のものとなっております。

※2021年2月10日発表の「2021年3月期 第3四半期決算短信」にて通期業績予想を見直しました。

第3四半期の進捗状況

(単位：百万円)

通期業績予想



※2021年2月10日発表の「2021年3月期 第3四半期決算短信」にて通期業績予想を見直しました。

セグメント別 売上高進捗状況

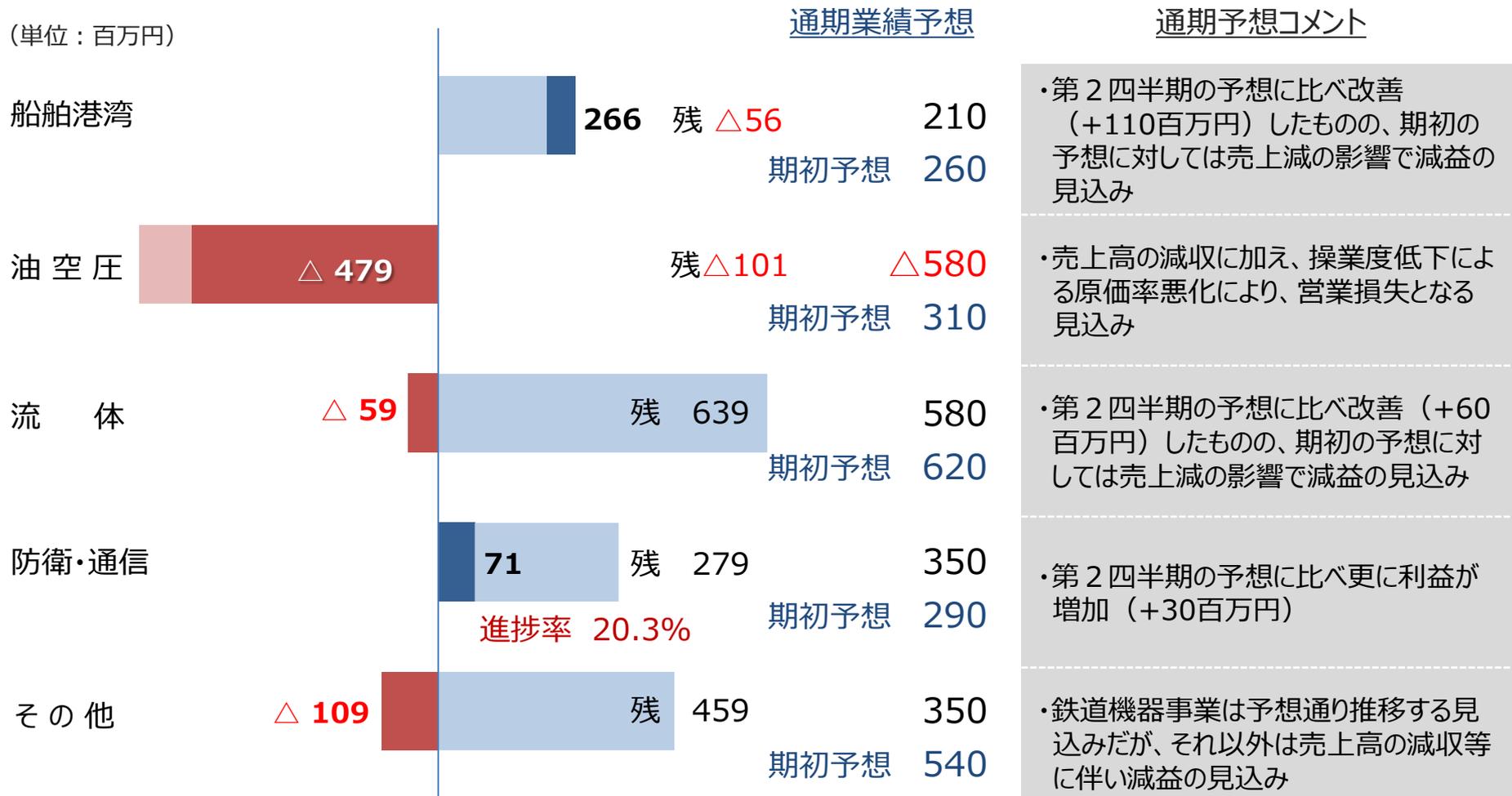
(単位：百万円)

			通期業績予想	通期予想コメント
船舶港湾	<p>6,487 進捗率 75.5%</p>	残 2,103	8,590 期初予想 9,200	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の影響で商船市場及びアジアを主とした海外市場での新造船向け需要が低調なことなどから減収の見込み
油空圧	<p>7,455 進捗率 71.8%</p>	残 2,925	10,380 期初予想 12,500	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍の影響から中国市場以外の主力のプラスチック加工機械／工作機械／建設機械の各市場の回復が遅れ、減収の見込み
流体	<p>2,124 進捗率 53.8%</p>	残 1,826	3,950 期初予想 4,200	<ul style="list-style-type: none"> ・官需市場はほぼ予想通りの見込みであるが、コロナ禍の影響により民需市場、海外市場の一部の案件に年度ズレが発生し減収となる見込み
防衛・通信	<p>11,100 進捗率 66.3%</p>	残 5,630	16,730 期初予想 17,000	<ul style="list-style-type: none"> ・衛星通信アンテナスタビライザーの数量増があったものの、海外案件、民需案件の一部がコロナ禍の影響で来期に繰り延べとなったことなどから減収の見込み
その他	<p>1,552 進捗率 46.2%</p>	残 1,808	3,360 期初予想 3,700	<ul style="list-style-type: none"> ・鉄道機器事業は予想通り推移することが見込まれるものの、それ以外はコロナ禍の影響で一部案件が凍結、繰り延べとなり減収の見込み

※数値は調整前売上高

※2021年2月10日発表の「2021年3月期 第3四半期決算短信」にて通期業績予想を見直しました。

セグメント別 営業利益進捗状況



※数値は調整前営業利益

※2021年2月10日発表の「2021年3月期 第3四半期決算短信」にて通期業績予想を見直しました。

4. 受注・受注残の状況

(単位:百万円)	2021年3月期3Q 受注高		2021年3月期3Q末 受注残高		
	金額	前年同期比	金額	前期末比	前年同期末比
船舶港湾	5,971	△6.2%	2,161	△19.3%	△9.3%
油空圧	7,369	△15.6%	2,462	△3.4%	△16.6%
流体	3,305	+3.7%	2,144	+122.7%	+10.1%
防衛・通信	10,088	+8.2%	14,256	△6.6%	△21.1%
報告セグメント合計	26,733	△3.2%	21,021	△2.0%	△17.1%
その他	2,792	+11.6%	1,670	+288.0%	+29.8%
合計	29,526	△1.9%	22,691	+3.7%	△14.8%

- ◆ 油空圧機器事業は、第2四半期に引き続き、コロナ禍によるプラスチック加工機械市場、工作機械市場、建設機械市場の需要減の影響で受注、受注残とも大きく減少
- ◆ 防衛・通信機器事業の受注残は、前期まで続いた官需市場のレーダー警戒装置等の量産受注がピークを越え、前年同期比で大きく減少

5. 連結貸借対照表（主要な勘定科目のみ）

（資産の部）

（負債・純資産の部）

（単位：百万円）	2020年 3月期	2021年3月期 第3四半期	増減額	（単位：百万円）	2020年 3月期	2021年3月期 第3四半期	増減額
流動資産	42,695	40,101	△2,593	流動負債	21,736	19,571	△2,166
現金預金	7,709	11,003	+3,294	支払手形・買掛金	5,800	5,121	△679
受取手形・売掛金	15,262	9,474	△5,787	短期借入金	11,692	10,935	△758
電子記録債権	4,404	4,168	△236	賞与引当金	1,123	562	△560
棚卸資産	15,001	14,696	△305	固定負債	3,197	3,302	+105
未収入金	81	449	+367	長期借入金	1,076	1,213	+137
その他	240	315	+75	退職給付に係る負債	1,229	1,180	△48
固定資産	11,882	12,177	+295	負債合計	24,933	22,872	△2,061
有形固定資産	7,004	7,051	+47	株主資本	29,065	28,538	△527
無形固定資産	0	13	+13	利益剰余金	22,542	21,995	△547
投資有価証券	2,991	3,416	+424	純資産合計	29,644	29,407	△237
資産合計	54,577	52,279	△2,298	負債純資産合計	54,577	52,279	△2,298

- ◆ 前期末に増加した防衛・通信機器事業の売掛金の回収などにより、売上債権（受取手形・売掛金、電子記録債権）が大幅に減少（前期末比▲6,023百万円）
- ◆ 仕入債務（支払手形・買掛金）及び借入金返済（長短合わせて▲621百万円）などにより負債が減少
- ◆ 利益剰余金は配当金（409百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失（137百万円）により減少

株主還元の実策について

【基本的な考え】

財務基盤とのバランスを図りながら、安定的な株主還元を実施

（内部留保資金について）

資本効率に配慮しながらも、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を図るため、収益力（稼ぐ力）の源泉となる「新技術の研究」、「新商品の開発」、「生産性の向上」、「海外拠点の拡充」、「人材育成」、「組織力強化」、「経営資源の補強」等を目的にした投資に充当

過去5年間の配当金の推移と2021年3月期の予想

	2016年3月期	2017年3月期	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期 (予想)
年間配当金（円 銭）※ (普4+記1)	5.00	4.00	20.00	25.00	25.00	25.00
配当性向（連結）（%）	33.2	46.8	29.6	21.3	28.8	63.0
総還元性向（連結）（%）	39.8	46.8	37.1	25.6	34.7	—

※2018年3月期以降については、株式併合後の配当額（株式併合前相当の配当額は表示の1/5）

最近の自己株式の取得状況

	2014年5月	2015年5月	2015年11月	2017年11月	2019年2月	2019年11月
取得株式数（株）※	310,000	300,000	335,000	58,000	76,800	84,700
取得価額（百万円）	84	84	84	85	85	85

※2017年11月実施分以降については株式併合後の株式数

株主優待制度（東京計器プレミアム優待倶楽部）の導入について

（１）本制度の導入目的

株主の皆様の日頃のご支援に感謝するとともに、当社株式への投資の魅力をより一層高め、中長期的に保有していただける株主様の増加を図ることを目的として、株主優待制度「東京計器プレミアム優待倶楽部」を新設いたしました。本制度の導入により、株主様との一層の対話強化に努めてまいります。

（２）本制度の概要

- 毎年3月末現在の3単元（300株）以上保有の株主様が対象となります。
- 対象となる株主様の保有株式数に応じてポイントが贈呈されます。そのポイントを株主様限定の特設ウェブサイト「東京計器プレミアム優待倶楽部」において、4,000点以上の厳選された商品からお好きな商品、共通株主優待コイン『WILLs Coin』（他のプレミアム優待倶楽部導入企業の優待ポイントと合算可能）に交換できます。また、社会貢献活動への寄付も可能です。

保有株式数	付与されるポイント	贈呈時期
300株未満	0ポイント	—
300株～499株	3,000ポイント	毎年5月
500株～699株	6,000ポイント	
700株～999株	9,000ポイント	
1,000株～2,999株	20,000ポイント	
3,000株以上	50,000ポイント	

※詳しくは、当社ホームページまたは2021年1月25日に公表しました「株主優待制度導入に関するお知らせ」をご参照ください。

TOKYO
KEIKI